

令和6年度 練馬区立大泉南小学校 研究パンフレット

本校の教育目標

○よく考える子 ○思いやりがある子 ○たくましい子

【研究主題】 あたたかな心と豊かな人間関係を育む道徳・特別活動

道徳 研究主題

「子供一人一人のよさや可能性を引き出す特別の教科道徳」

特別活動 研究主題

「互いのよさや可能性を見だし、楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」

1年学級会

『「6年生ありがとうの会」を開こう』



4年道徳

「思いでつながる命」



2年学級会

『「2年生がんばったねの会」の計画を立てよう』



5年道徳

「社会の役に立つとは」



3年道徳

「受け継がれてきた命」

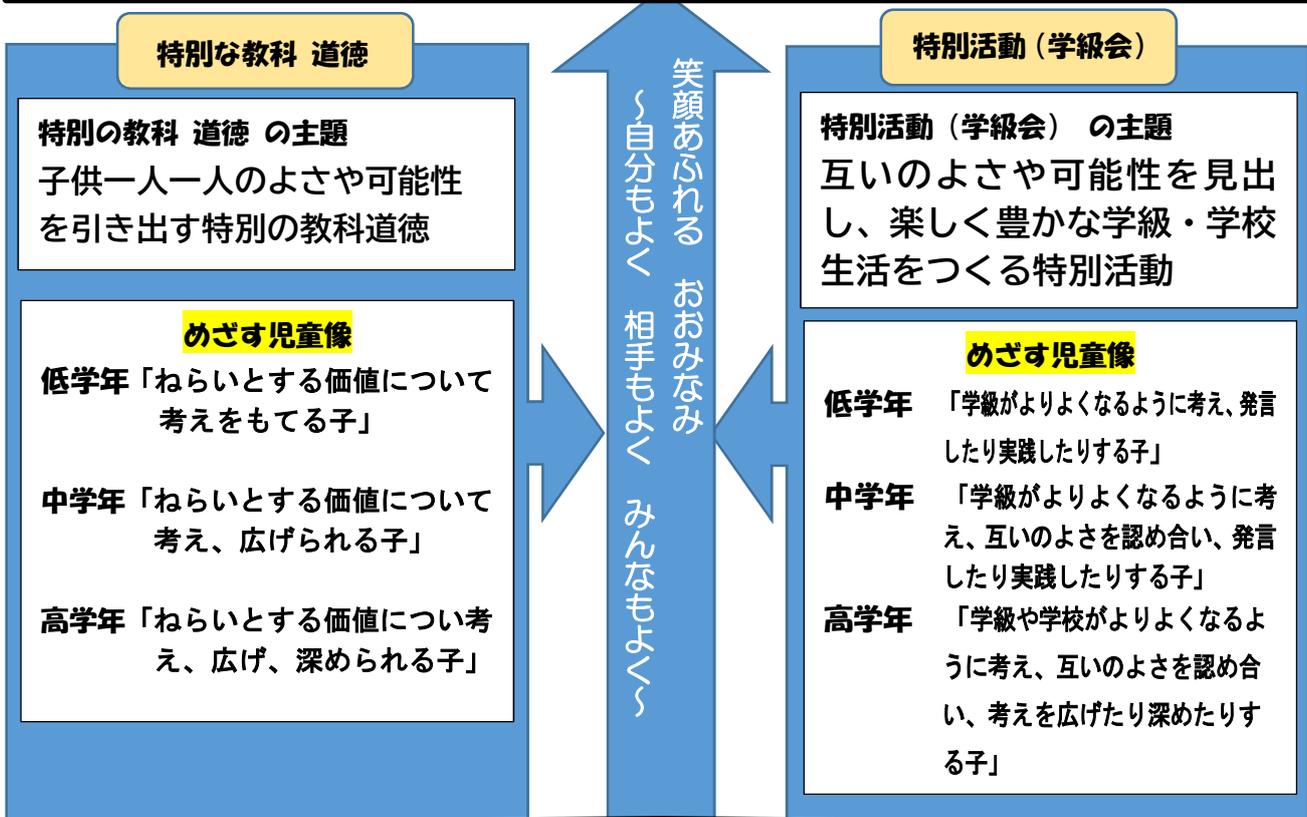


6年道徳

「その人のために」



教育目標
 ・よく考える子 ○思いやりがある子 ・たくましい子



研究主題
 あたたかな心と豊かな人間関係をはぐくむ道徳・特別活動

目次

教育長あいさつ 校長あいさつ	1
各学年の成果と課題	
道徳科 1年「きまりをまもる」	2
道徳科 3年「生きている仲間」	3
道徳科 5年「節度ある生活を」	4
学級活動(1) 2年「2学期の係活動を工夫しよう」	5
学級活動(1) 4年「あいさつ運動をパワーアップしよう」	6
学級活動(1) 6年「秋のお楽しみ会を計画しよう」	7
学級活動(2) 2年『ことば』でなかよく」	8
学級活動(3) 6年『自分探し』の旅」	8
成果と課題・終わりに	

あいさつ

練馬区教育委員会 教育長 三浦 康彰

令和5年6月に閣議決定された国の教育振興基本計画では、2040年以降の社会を見据えた教育政策の総括的な基本方針として、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示されました。子供たちの豊かな情操や道徳心を培い、ウェルビーイングの向上を図る上で、人格形成の根幹に関わる道徳教育や社会で生きて働く力を育む特別活動の充実がより一層期待されています。

そうした中、大泉南小学校は、全国道徳特別活動研究会および練馬区教育課題研究指定校として、研究主題を「あたたかな心と豊かな人間関係をはぐくむ道徳・特別活動」とし、「持続可能な社会の創り手」となる人材の育成に向けて必要な資質・能力を明確にした授業や、子供が互いの良さや可能性を発揮し、協働して学び続ける授業づくりに繋がる研究に取り組みました。

本研究を通して、児童一人一人の可能性を引き出すとともに、児童がお互いのよさを見いだすことによって、豊かな情操が育まれたことは大きな成果であると捉えています。今後、本校の研究成果を基に、区内各校において豊かな心を育む道徳・特別活動の充実が図られることを期待します。

結びにあたり、本校の研究に対し温かくご指導いただきました講師の方々に深く感謝を申し上げますとともに、本研究に取り組みました田村 亜紀子校長をはじめ教職員の皆様に敬意を表し、あいさつといたします。

はじめに

校長 田村亜紀子

令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症に対する様々な対策も、令和5年5月からは新型コロナウイルスが5類へ移行し、学校生活が戻ってきたかに見えました。しかし、この3年間でできなかった心の交流や、みんなで行事等をつくりあげた時の達成感などを味わうことは、今後の成長にどのように影響をするのか、計り知れません。そこで、心を育む道徳科とその実践の場としての特別活動を研究の中心に据え、昨年度より、「あたたかな心と豊かな人間関係を育む道徳・特別活動」という研究主題のもと、道徳と特別活動の研究をすすめてきました。さらに、道徳の研究主題を「子供一人一人のよさや可能性を引き出す特別な教科道徳」とし、道徳科の授業展開について、その指導方法について協議しながら、研究を深めました。そして、特別活動の研究主題を「互いのよさや可能性を見だし、楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」とし、特別活動の基盤となる学級活動(1)学級会に焦点をあて、発達の段階や経験の度合いに即した話し合い活動や実践に向けた取組について、子供たちと一緒に作り上げてきました。また、学級活動(2)(3)の授業実践も行う中で、学級会との相違や意思決定後も含めた一連の活動について研究を進めてきました。

今年度は、時に、練馬区教育課題研究指定校として研究を深め、去る1月25日(土)には、授業を公開することができました。当日は、全国道徳特別活動研究会全国研究大会会場校としての授業公開ということもあり、練馬区はもちろん、全国から本校にご来校いただき、ご指導をいただきました。本研究を通して、子供たちを中心に置きながら、道徳科や学級会の指導法についての考え方を深めることができました。これからも、日々、子供と向き合いながら、実践を深めてまいります。

結びになりますが、本研究をすすめるにあたり、練馬区教育委員会の皆様並びに文部科学省初等中等教育局教科調査官 堀田 竜次先生、十文字学園女子大学教授 浅見 哲也先生、玉川大学TAPセンター准教授 川本 和孝先生をはじめ、多くの先生方にご指導を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

第1学年

主題名「きまりをまもる」 内容項目 C[規則の尊重]

教材名「どうして こう なるのかな」

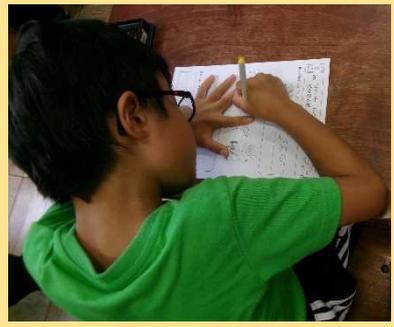
(出展:道徳I きみがいちばんひかるとき 光村図書)

本時のねらい

・進んで約束やきまりを守ろうとする意欲や態度を育てる。

授業の様子

廊下を走っていて友達にぶつかる場面など、児童にとって身近な出来事が描かれている挿絵を通して、自分の学校生活を重ね合わせながら、約束やきまりを守る意義について考えさせ、規則の尊重についての価値理解を図った。挿絵に対して、どんな声かけをしたり、言葉を発したりするかを想像し、吹き出しに書いた。学習形態を、個人→ペア→全体と広げ、自分とは異なる考えに触れながら、自分の考えを広げたり深めたりしていった。



成果

- ◆大型モニターと共に、構造的に板書をすることで、児童が何を考えるべきか明確だった。
- ◆「どうなる。」「どう思う。」「どうしてこうなったの。」と段階的に発問することで、児童にとって分かりやすく、自分ごととして捉えやすかった。

課題

- ◆きまりは守るべきと思っていながらも、なぜ破ってしまうのかを考えた時、児童の呟きにあった「つい。」「楽しくなってしまう。」という人間の「弱さ」もしっかりと考えていけるとよい。
- ◆終末は、「きまりを守るといいこと」で終わるのではなく、めあてを振り返るようにするとよい。

第3学年

主題名「生きている仲間」 内容項目 D[生命の尊さ]

教材名「自然とともに」

(出展:道徳3 きみがいちばんひかるとき 光村図書)

本時のねらい

・自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情を育てる。

授業の様子

花や野菜を育てた経験を聞いた事前アンケートを導入で取り扱い、本時で取り扱う内容項目への意識付けを行った。補助発問では「どのようなことを思って、『早く大きくなってね』とトマトに話し掛けたのか」を考えさせた。主発問では「トマトを生きている仲間だと思った主人公」についてワークシートに自分の考えを書かせ、構造的に板書することで、多面的・多角的な考えを促すことができ、自身の生き方について振り返ることができた。



成果

- ◆教材文の読み取りにならず、主人公に自分自身を重ねて考えることができていた。補助発問により、自我関与して考えることにつながっていた。
- ◆「生きている仲間」の根拠をどのように考えているのか、分類・整理して構造的にまとめられていた。

課題

- ◆範読では、児童に聞く視点を与えると、さらに主体的に学習に取り組むことができた。
- ◆授業の後段においても、本時のテーマに立ち返り、「生きている仲間は、どのような仲間だったか。」と問い返し、授業に一貫性をもたせるとよかった。

第5学年

主題名「節度ある生活を」 内容項目 A[節度、節制]

教材名「流行おくれ」

(出展:道徳5 きみがいちばんひかるとき 光村図書)

本時のねらい

・進んで自分の生活を振り返り、節度を守り、節制に心がけようとする態度を育てる。

授業の様子

導入部分で事前アンケートの結果を用いて、本時で扱う内容項目の意識付けを行ったり、挿絵を大型モニターで提示しながら範読を聞かせたりすることを通して、登場人物に自我関与させながら本時の内容項目に迫ることを図った。また、学習形態を、個人→ペアまたは小グループ→全体へと広げたことで、自分以外の意見に触れながら、自分の考えを広げたり深めたりしていった。



成果

- ◆事前にアンケートをとって、導入を工夫したことで、登場人物の女の子に自我関与しながら、自分ごととして考えることができた。
- ◆交流を通して、本時の内容項目である「節度・節制」について多角的にとらえ、自分の考えを広げたり、深めたりしていた。

課題

- ◆意見を集約する際に、教師が用意したキーワードではなく、児童から出てきた言葉でまとめられるとよい。
- ◆教師と児童との一問一答ではなく、その児童に問い返したり、他の児童に聞いたりするなど、発言を広げられるとよい。

第2学年

議題「2年生がんばったねの会をひらきたい」

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

提案理由

・ただ、2年生をおわるのではなく、1年をふりかえって、みんなでおわかれ会をひらいた方が思い出になるからです。

本時のねらい

・仲を深め、1年を振り返って思い出を作るための遊びや会の工夫を考えることができるようにする。

授業の様子

話し合うこと①ではどんな「2年生がんばったねの会」にすると、1年を振り返り、思い出を作ることができるかを話し合い、話し合うこと②では「係分担」を話し合った。どのような内容にすると1年を振り返ることができるか、という観点で、会の内容を話し合った。「思い出ビンゴ」などの遊びだけでなく、思い出に残るための「お手紙こうかん」、「しゅう合しゃん」などのアイデアも出された。



成果

- ◆事前に「出し合う」について計画委員を中心に集約していたため、スムーズに質問タイムから話し合えた。
- ◆思い出を振り返るという提案理由が明確だったため、話し合いの観点が焦点化され、ぶれずに話し合うことができた。

課題

- ◆自分の意見に固執してしまう児童もいたので、みんなで楽しむ、みんなで思い出を振り返るという意識付けをおこなっていけるとよい。
- ◆1時間で役割分担まで話し合う計画であったが、話し合うこと①の検討時間が長くなってしまった。話し合いのまとめ方を工夫して、時間内に結論が出せるようにしていくとよい。

第4学年

議題「あいさつ運動をパワーアップしよう」

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

提案理由

- ・1学期に行ったあいさつ運動でたくさんの人があいさつを返してくれた。けれど、返してくれない人もまだまだいたので、もっと多くの人があいさつを返してくれるようなあいさつ運動をしたい。

本時のねらい

- ・「あいさつ運動」をよりよく行うためには、どのような取り組みと準備をすべきか、自分の意見をもつことができる。また、たくさん挨拶が返ってくる「あいさつ運動」を目指し、役割を決めることができる。

授業の様子

話し合うこと①では「あいさつ運動で何をするか」、話し合うこと②では「あいさつ運動でどの場所を担当するか」を話し合った。1学期より多くの人から挨拶を返してもらうためにどのような挨拶運動の工夫をすればよいかについて話し合い、ポスターやたすきなど、目で見て挨拶を意識付けるものを作成して取り組むことを決めた。また、行う場所についても、校門に人数を多めに配置するなど、工夫して取り組むことが決まった。



成果

- ◆「出し合う」を事前に行っていたことから、多くの意見をもとに話し合いを進めることができた。
- ◆1学期の活動を教室掲示として見えるようにしたことで、2学期のあいさつ運動の意識がより高まった。

課題

- ◆話し合いでは提案理由から意見がそれてしまう姿も見られたので、計画委員会でより綿密な打ち合わせを行うことが必要だった。
- ◆心配意見が多く出たことで、肝心の議題からそれてしまった。心配も大切であるが、賛成意見を多く出せる雰囲気作りができるとよかった。

第6学年

議題「秋のお楽しみ会を計画しよう」

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

提案理由

・移動教室では、これまであまり関わりがなかった友達とも関わる事ができた。学級の友達ともっと仲を深めることができれば、楽しい思い出を作ることができると思う。

本時のねらい

・仲を深めるための遊びと工夫を考えることができるようにする。

授業の様子

話し合うこと①では「多くの人と関われる遊びをどうするか」、話し合うこと②では「仲を深める工夫をどうするか」を話し合った。多くの人と関わるためにくじ引きでチームを決め、以心伝心ゲームをすることになった。また、なんでもバスケットと爆弾ゲームをし、鬼になった人や爆弾をもっていた人はクラスの友達との思い出を語るようになった。



成果

- ◆計画委員会を中心に、事前に「出し合う」ことを集約していたため、話し合いがスムーズに進んだ。
- ◆提案理由が明確であったので、「あまり関わらなかった友達と関わってさらに仲を深めていく」ために様々な立場を考えてどうすればよいか、意見を言うことができていた。

課題

- ◆意見を言う児童に偏りが出してしまうので、司会が進行状況に応じて臨機応変にペアや小グループ等で自分の考えを言う時間を保障していけるとよい。
- ◆1時間内に役割分担まで話し合うことようにしていくために、話し合いの中で重点をおく活動を考え、時間配分を決め、まとめ方を精選できるようにしていくとよい。

第2学年

題材「『ことばでなかよく』」

学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

授業の様子

これまでの自分自身を振り返り、相手に言われて嬉しかった言葉や悲しかった言葉を整理した。チクチク言葉は悪いと分かっているでも使ってしまう理由を考え、これからどんな言葉を使っていきたいか話し合った。「ほめほめじゃんけん大会」で、ふわふわ言葉を使って相手の良いところをほめる活動を行い、これから友達により言葉を使っていきたいという意欲を高め、自分なりの実践を意思決定した。



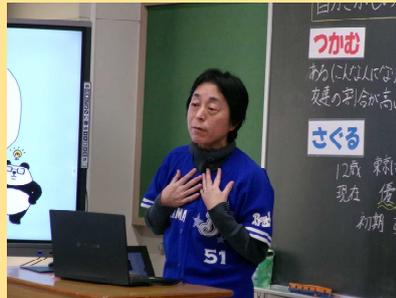
第6学年

題材「『自分探し』の旅」

学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

授業の様子

地域のゲストティーチャー(ねりパパ)に来て話をしてもらった2回目であった。これまでの自分自身を振り返り、「なりたい『自分』」を考え、そのために必要なことやできることをグループで話し合った。話し合ったことを生かして、「自分がよりよく生きること」への考えを深め、一人一人が今後の行動目標を決めた。



成果と課題

成果

○道徳科

- ・価値観、児童観、教材観をもとにまず、中心発問を考えた。さらに、中心発問につながるように前後の発問を考えることで 児童がねらいに深く関わったり、多面的・多角的に考えたりすることができた。
- ・ねらいに応じて事前に撮影した写真を提示したり、アンケートの結果を提示したりすることにより、自分のこととして関心をもって学習に取り組めるようになった。

○学級活動

- ・研究当初は時間内に話し合いをまとめきれないことがあったが、計画委員が事前にみんなの意見を整理したり、教師と話し合いの進め方を確認したりしたことや、実践を通して成功体験を積み重ねたりしたことで、児童が主体的に話し合うようになり、時間内に話し合いをまとめることができるようになってきた。

課題

○道徳科

- ・児童の反応を予め予想し、問い返しや補助発問を考え、人間の弱さにも触れさせることで、さらに多面的・多角的に考えていけるとよかった。

○学級活動

- ・話し合いの進め方や意見のまとめ方の定着の徹底を図るとともに、実践の充実感や達成感等を次につなげる活動をさらに進めていく。

おわりに

副校長 渡邊 弘樹

社会や環境が頻繁に変化し、未来に対する予測が難しい時代になっています。子供たちが成長し、社会で活躍している2040年以降の世の中を見据えたとき、少子高齢化、グローバル化、人工知能(AI)の発達などが加速度的に進み、予測困難な時代となることが現実視されています。そこで、子供の心を育む道徳教育や、個が集団の中で育ち、集団の成長が個を生かす特別活動の意義が改めて見直され、海外でも「日本型教育」として注目されてきました。

そこで本校では、「特別の教科 道徳」と「特別活動(学級会)」を研究の中心と位置付け、研究を続けてきました。「特別の教科 道徳」では、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考えていくため、どのように指導を展開していったらよいか、「特別活動(学級会)」では、様々な意見に触れ、合意形成をして、仲間との絆を深めたり学校生活をより充実させたりするための教師の手立てについて、研究を深めてきました。ここに2年間の研究の成果をまとめることができました。研究で深めたことを日々の授業で実践し、今後もさらに子供たちの「生きる力」を育てていく所存です。

最後になりましたが、文部科学省教科調査官 堀田 竜次 様、十文字学園女子大学教授 浅見 哲也 様、玉川大学TAPセンター准教授 川本 和孝 様を始め、多くの先生方に御指導・御鞭撻をいただきました。誠に感謝申し上げます。ありがとうございました。



<ご指導いただいた講師の先生方>

- ・文部科学省教科調査官 堀田 竜次 先生
- ・十文字学園女子大学教授 浅見 哲也 先生
- ・玉川大学TAPセンター准教授 川本 和孝 先生

<研究に携わった教職員> ☆研究推進委員長 ○研究推進委員

【校長】 田村 亜紀子

【副校長】 渡邊 弘樹

【低学年分科会】

- | | | | | |
|----|---------|--------|--------|------|
| 1年 | 廣幡 繭子 | ○岩浅 健介 | ○中根 紗絵 | 加納 潤 |
| 2年 | ○宇野 真梨絵 | 玉野 瞳 | 徳富 謙一 | 星 萌子 |
| 専科 | 下村 聖子 | 齋藤 富士子 | | |

【中学年分科会】

- | | | | |
|----|--------|--------|--------|
| 3年 | ○長屋 信友 | 今 仁志 | 松岡 果奈子 |
| 4年 | 永島 亮太 | ○田島 優子 | 篠崎 佳希 |
| 専科 | 野崎 一也 | 岩城 裕子 | |

【高学年分科会】

- | | | | | |
|----|--------|--------|--------|-------|
| 5年 | ○廣津 都義 | 本山 史依瑠 | 田邊 佳代子 | 佐藤 貢太 |
| 6年 | ☆小川 毅史 | ○大野 智成 | 平井 千晶 | |
| 専科 | 桑名 晴美 | | | |

〒178-0063

東京都練馬区東大泉 6-28-1

練馬区立大泉南小学校